

姫路JC

わがLOMのシニアクラブ

# 震災の援助を受ける中で芽生えた 全国会員大会を実現する気持ち

姫路JCシニアクラブの母体である姫路JCは、西宮JCをスポンサーとして1957年(昭和32年)に創設され、認証番号114番をいただきました。

創設以来、LOMの卒業生は620名を数え、現在のシニアクラブの会員数は520人です。私などはまだまだ若輩で汗顔の至りですが、シニアクラブの慣例で、歴代理事長が持ち回りで会長を拝命していくことになっており、今年度、会長を務めさせていただきます。

他LOMのシニアクラブでも同様かと思いますが、「金は出すが口は出さない」が原則で、現役の諸君とは、新年例会、6月22日の創立記念例会、年末の忘年例会など

に参加して交流を図るとともに、年度によつては交流ゴルフコンペなどの事業でも親睦を図り、毎年、現役予算に対して活動助成金を支援しています。

また、姫路JCが、66年から唐津JCと、91年からマカオの濠江JCと姉妹JCを締結したため、周年やJCI/NOM大会に絡む機会など大きな交流相互訪問の折には、現役に合流して訪問団に加わらせていただいています。

さらに歴代理事長懇談会や、歴代日本JC役員・地区・ブロック会長懇談会なども開催し、現役役員の皆さんと意見交換し、現役活動を応援しております。



雪の美術館での米谷第46代理事長と松本第51代会頭(当時)

姫路JCシニア代表団(第51回全国会員大会旭川大会にて)

にわかに慌しいものになってきたのは、全国会員大会の誘致の動きが起った97年頃からです。もちろん私もが現役当時より、地区やブロックの会員大会の主管や、全国規模の大会の一つとしては、関係LOM間で持ちまわりで開催している全国城下町シンポジウムの誘致(92年姫路大会開催)などを通じて、いつかは全国会員大会の実現を、という夢を持ち続けていたことは事実でした。そして阪神・淡路大震災で全国のJCの皆様からご援助いた

く中で、その夢を実現しようという気持ちで現役諸君に芽生えたのだと考えます。02年第51回全国会員大会旭川大会・雪の美術館での理事会において、本年度会頭の米谷啓和君が、第46代LOM理事長として主管立候補最終スピーチをさせていただきました。当時の松本会頭より05年度第54回全国会員大会の姫路での主管開催決定のご報告を頂戴いたしました。

本年の会頭所信でも米谷君が述べておりましたが、3年後の日本JCの運動の広がりとすることも念頭に、当時の立候補所の柱「スローな大会」を主題に挿入したとのことで、彼の先駆者としての識見に敬服しています。

LOMシニアクラブとして会頭を支援させていただきますことは当然でございますが、どうか全国JCのシニア会員の皆様、現役会員の皆様、米谷会頭へのご支援をよろしく願います。そして姫路JCシニアの私どもは、日本JC全国会員大会水戸大会、JCI世界会議福岡大会の大成を心からお祈りしながら、シニアクラブとしての全国大会準備実行委員会(北川豊彦実行委員長)を立ち上げ、水戸JCシニアクラブの皆様のご指導を仰いでいこうと考えております。

◎ 姫路JCシニアクラブ会長 岡田兼明

## 日本JCシニア・クラブ 「第49回会員総会」

2月25日(水)、日本工業倶楽部2階大会堂において、第49回、日本JCシニア・クラブ会員総会が開催された。会議は開会宣言ののち吉田健二郎筆頭世話人代表の挨拶に始まり、またこの日は本年度の米谷啓和会頭ならびに揚原安摩直前会頭の挨拶で開会に華を添えた。

議事は前回臨時総会議事録の承認、議長選出、議事録作成・署名人の指名を受け、審議に入った。審議事項は2003年度事業報告、決算報告、2004年度役員選任、事業計画、収支予算。それぞれの議案で選任・承認を行った。また規約の一部改正にともなう名誉世話人代表に前田博氏の選任・承認も行われた。

報告・依頼・確認事項においては、10月開催の水戸の全国大会、11月開催の福岡の世界会議、2006年度開催の高松のJCIアジア大会からの報告が行われた。最後に斉藤正信監事らの監事講評をもって閉会となった。

総会後、米「フォーブス」誌・アジア太平洋支局長ベンジャミン・フルフォード氏による「日本の腐敗構造」と題した記念講演が行われた。日本語が堪能の氏が18年間の日本の生活で見聞体験した日本の政財界の癒着などの腐敗構造を、ユーモアを交えてわかりやすく解説。質疑応答でも辛口なジョークが飛び交い、有意義な講演となった。

◎ メディアコミュニケーション委員会  
副委員長 渡辺英正